

公務災害防止事業の推進

安全管理セミナーを実施して

鹿児島県始良郡湧水町

1. はじめに

本町は鹿児島県の中央北端に位置し、平成17年3月22日に旧栗野町、旧吉松町の2町合併により誕生しました。

人口は約1万2千人、総面積は144.33km²で、北から東にかけて宮崎県えびの市、東から南にかけて霧島市、西は伊佐市及び薩摩郡さつま町に接し、東の霧島連峰と北西の九州山脈矢岳支脈の両山系に挟まれた火山灰土壌（シラス）に覆われた盆地となっています。

また、まちの中央部を熊本県の白髪岳に源を発する九州第二の河川、川内川が貫流しており、その流域は肥沃な耕地が拓け、水田地帯を形成しているほか、山麓には絶え間なく冷水が湧き出している湧水群があります。その中でも名水丸池湧水や竹中池湧水の湧水量は豊富で、冷たく、透明度も高く、訪れる人を癒してくれます。

更に、東部の霧島連山の山麓には広大な原野が開け、その一部は陸上自衛隊の演習場となっています。その南側の霧島屋久国立公園の一角にある栗野岳中腹からは、東に霧島連山、南に錦江湾、桜島、薩摩半島、西に紫尾山などの山々が一望で

き、豊かで美しい自然とその壮大な景観が楽しめます。古くから大隈、日向、薩摩の交通の要衝として栄え、現在も九州縦貫自動車道が通り、県境の重要な基点となっております。

2. 湧水町消防団の概要

湧水町消防団は、自治体の合併を経て、それぞれで組織していた消防団を統合し、現在の湧水町消防団が誕生しました。

現在は、1本部14分団の条例定数259名で構成され、指揮車1台、消防ポンプ車5台、水槽付消防ポンプ車1台、小型動力ポンプ付積載車12台、小型動力ポンプ11台、船外機付ボート4隻を配備しております。平成16年度からは本部付女性部として、16名の女性消防団員が活躍しています。

通常の活動としては、管轄地域の消防水利の管理、防火広報及び高齢者世帯への防火訪問や川内川の水閘門管理を行い、また、隔年おきに実施する消防操法大会や各種訓練（年3回）を実施しております。

また、災害時の活動としては、火災、行方不明者の捜索は当然のことながら、毎年のように発生



日本棚田百選「幸田の棚田」



名水百選「丸池湧水」

する台風や水害時の地域の巡視、避難誘導及び救出を行っております。水害時の救出活動には、ボートが欠かす事のできない機材であり、操作に当たる免許取得者も30名確保しており、即時に対応できる体制を作っております。

3. 安全管理セミナー開催の経緯

本消防団では、毎年9月の「防災の日」に伴い訓練を行っております。

平成22年度は、県消防協会の出前講座により、県防災アドバイザーを講師に招き、風水害・土砂災害への防災意識の向上を目的とした防災研修を実施し、平成23年度は、湧水町を管轄する横川警察署の交通課長による、消防自動車交通事故防止のための実技講習を行ってきました。

そして今回、消防団員は、住民の生命と財産を守る使命はさることながら、消防団員も自らの安全確保が第一であることから、日ごろからの意識付けや危険予知の感覚を養うことが必要であると考え、安全管理セミナーの開催に至りました。

4. 安全管理セミナーを開催して

平成24年9月2日（日）午前9時から、湧水町栗野中央公民館大ホールにおいて、消防基金S-KYT指導員の多々羅光男氏を講師としてお迎えして、湧水町消防団の257名全団員を対象に研修を行いました。

「消防団員の事故防止のために」をテーマに、災害現場における安全管理の基本や指揮者としての安全管理、ヒヤリハット事例などテキストやDVDを用いた講義や東日本大震災による震災後の現場の様子などの多々羅指導員の実体験を含めた講義が行われました。

また、S-KYT（S=消防団、K=危険、Y=予知、T=トレーニング）の講義においては、参加者全員で指差し呼称を行うなど、有意義な研修となりました。



5. 今後の取り組みについて

今回の安全管理セミナー開催により、自分の身を守ることの大切さやS-KYTの重要性を再確認することができました。東日本大震災以降、消防団の取り組みは、これまで以上に重要視されています。今後も、自分自身の安全管理に努め、住民の生命と財産を守る使命を果たすべく、消防団活動に取り組んでいきます。

